

# 県外派遣審判員報告書

前田 隼大

大会名：九州ブロック国民体育大会 バスケットボール競技

期 間：令和元年 8 月 23 日～25 日

会 場：唐津市文化体育館、鎮西スポーツセンター体育館、唐津工業体育館

## ●審判会議

代表者会議の伝達

(コーチ、プレイヤー、チームの協力について

得点の加算ミスについて：特に 3or2 )

所連絡

◎担当ゲーム 24 日 Cコート 第2試合目 成年女子 熊本 VS 佐賀

CC:山口(長崎県)、U1：西崎(福岡県)、U2：前田

### PGC

メカニクス、IOT、ガイドラインの確認

ダブルコール時のアイコンタクト→プライマリ

コミュニケーションの取り方(無視せず短く簡潔に)

### ゲーム

前半は佐賀のアウトサイドが決まる中、熊本が得点を取りきれず佐賀ペースでゲームが進んだ。後半開始早々熊本 9 番を中心に得点を重ね追いつくと一進一退。後半はインサイドでの攻防が激しさを増したが 1on1 を得点に上手く結びつけた熊本が僅差で逃げ切った。

### ゲーム後 主任 窪田氏(佐賀県)

女子特有の引付くところ、引付いた後離れるところ(スクリーン等)に笛が増えてよかったのではないかな。

アクティブリード：縦のドライブ等 L が確認できたものは積極的にコールする。

◎担当ゲーム 24 日 Fコート 第6試合目 成年男子 沖縄 VS 佐賀

CC：原田(鹿児島県)、U1：中屋敷(大分県)、U2：前田

### PGC

メカニクス、IOT、ガイドラインの確認

チェックイン、チェックアウトの意識

映像を用いたスカウティング

### ゲーム

沖縄が序盤からインサイド、アウトサイド、ブレイクで得点が伸びる中、佐賀は前試合の疲労がみられ粘るも前半のリードを広げて沖縄が勝利。ピック&ロールが多くみられたゲームだった。

### ゲーム後 クルーミーティング

テンポセット ブロッキング、イリーガルスクリーン

Cサイドのアングルの持ち方(アクティブなマッチアップとオフボールマッチアップの見方)

◎担当ゲーム 25日 Bコート 第2試合目 U16男子 大分 VS 宮崎  
CC：宇地原(沖縄県)、U1：篠原(福岡県)、U2：前田

### PGC

プライマリ、アングルについて (ブレイクにならないように)

3vs2 Lからのアシストコール(1番Lが見えやすいところはコール)  
メカニクスの確認

### ゲーム

前半は大分のゾーンディフェンスが効果を示しロースコアで僅差であったが、後半はブレイクが多くみられ宮崎が走り勝った。前半は大分のファールは少なかったものの後半宮崎のドライブが多くなりファールが多くみられた。

### ゲーム後 主任 萩尾氏(福岡県)

クルーで上手く運営できていた

コールはゆっくり、はっきり行う

TO とうまくコミュニケーションがとれたら尚良い

### ●全体を通して

鹿児島インターハイが終わり来年の鹿児島国体、個人としては9月の上級審査会に向け、地に足をつけて取り組んでいくことを再確認できた大会となりました。

メカ・ベーシック、シンプルなプレーコーリング、処置ミスゼロをインターハイから継続して意識はしていたもののクルーに助けられた部分もある

り、そのような場面では「焦りやノイズ」に惑わされるケースがあったように感じます。アクティブマインドセットを常に発揮できる為にメカニクス・プレーコーリング等の準備はもちろんですが、ぶれない強さを築き上げていく訓練を日頃の生活の中で決断していかなければならないと感じました。また、プレイヤー・コーチとのコミュニケーションの取り方をブロック国体で得たものを取り入れて試行錯誤行ってみます。

今回の派遣にあたりご協力いただいた原田審判長はじめ鹿児島県バスケットボール協会の皆様、お世話になりました佐賀県バスケットボール協会の皆様に感謝申し上げます報告とさせていただきます。ありがとうございました。